

望 慾



望 慾

★作品解説★



★脚本★

新藤兼人 監督 吉村公三 監製 鄭の

★撮影は「雨月物語」の宮川一夫、美術小池一美、音楽は伊福部昭の日本映画界最高の第一線スタッフが当り★配役に又、水戸光子、菅原謙二、長谷川裕見子、日高澄子、乙羽信子★更に小澤栄、菅井一郎、進藤英太郎、毛利菊枝、岸輝子、北林谷栄のヴェテランを描いている。



と慾との人生縮圖！

(進藤)の家は正に大旋風である。「まゝ待った！」
野(小澤)。



★演出意圖 吉村公三郎

私はこの映画の中で、現代社會の庶民の物の考え方、むつかしく云えばイデオロギイを描きたい。すなわち家庭、戀愛、夫婦生活、政治經濟といったもの、いろいろな考えを持った人物が、どう船名つて行くかを風俗映画の形を借りて描こうとするものである。しかし、根本は飽くまでイデオロギイな映画であつて風俗映畫ではない。それぞれのイデオロギイに適した風俗を選んだまゝである。例えば、ボスを面白くする爲に、華盛屋にして少し足りない人物にして、本人だけが英國風の紳士と思つてゐるだけで、誰もそう思つていない。齒科醫を出したり、單純で善人のパン助を登場せたりしてゐる。舞臺に大森を選んだのは、東京の端にある大森がそう云つた風俗的に面白から取り上げたもので、實際は大森にパン助などはないが、劇を仕組み易いようにとり入れたのである。劇内容はそれぞれの人物の主觀的立場から見れば、可成深刻に見えるが、これを客觀的に描くので、實に喜劇になる。フリースとまでは行かないが、コメディを作るつもりだが、最後のボスと紳士の喧嘩などはドタバタに近いものになるだろう。私は終始明るい輕快なタッチで描いてゆくつもりである。作品系列から云えば「南の風」「自由學校」の線であろう。

注意していただきたいのは、本當に悪い人物が一人も出て來ない事で、社會的な環境がそれだけの人や考え方を生むので、登場人物は銘々に何處かピントの外れた考え方を生じてゐて、しかも本人自身は矛盾と考へてゐない所に、客觀的に見た場合笑いを生じてくる。一申略一おそらくはこの映画は私の作品中でも、笑の點では相當自信が持てる。題名「慾望」から何か「暴力」と同系統のものを連想される深刻な賣り方をしたのは、観客に對しても不親切だと思ふ。「慾望」と云う題名だが、もつとくだけた感じで「色と慾」と云つたつもりで考へていただければよい。

むつかしく云えば、私はこの映画で、庶民の生活に於ける現代の文明批評を喜劇的に描きたいのである。

★スタッフ

脚本 本新藤 監督 吉村 監製 影宮川 録音 大角 音楽 伊福部 照明 岡本 美術 小池 製作主任 橋本 衣裳補導 上野 芳正 勘一 健一 正昭 夫三 郎人 生嗣 一美 昭夫 夫郎 人

★キャスト

梶原 咲枝 水戸 光二 河田 正樹 菅原 謙二 妻 孝子 長谷川 裕見子 杉山 ヒロ子 日高 澄子 北見 静江 乙羽 信子 紺野 長次郎 小澤 榮子 島崎 徹青 井 一郎 矢車 泰造 進藤 英太郎 山崎 久子 岸 利菊 せつ 北林 輝子 種田 徳平 殿山 泰司 車 夫 上田 敏寛 咲枝の兄和夫 近衛 敏三 田村 喜代次 伊達 一郎 瘦せた男 越川 八郎 運轉手 大國 八郎 種田の妻アキ 大國 八郎 正樹の母 松浦 架枝 紺野の妻トリ 金剛 麗子 島崎の娘 八代 千鶴子 矢車的情婦 小柳 圭子 和夫の妻きみ 仲上 小夜子 トム ネルソン・ティラー 歌う黒人兵 アレキサンダー・パハ

色

矢車と紺



★梗概



大陸の戦地より未歸還の夫を待つ梶原咲枝は、義母のせつと共に、焼け残った大森の片隅で暮らしていたが、家主の紺野から立退きをするか、妾になるかを迫られている。本業は葬儀屋で、他にいろいろな多角経営をしているその紺野長次郎は、界限の一寸したボスで、以前区會議員に立候補した時、婦人民主會の山崎女史に、ある女性を圍つてゐる事を暴露されて落選した苦い経験があるので、今回の久江に對しては、かなり慎重な態度に出ているし、一方、選舉準備の人氣取りの方にも抜目なく立働いている。咲枝の義母せつは、怪しげな生神様のお告げを唯一の生活指針としているが、根は相當のチャッカリ屋である。

戦争中咲枝の家の女中をしていた杉山ヒロ子は、今では獨立して黒人兵トムというれつきとした愛人を持つ、いふなれば特殊婦人だが、單純な性格の善人で、將來アメリカの南部でトムと楽しい家庭を持つ夢を見ている。

咲枝の家の向いは種田徳平の經營する温泉マージクの旅館で、ヒロ子とトムの愛の巢である。種田もまた紺野から立退きを迫られている組だが外資獲得の一端をになつてゐるだけに、かなり鼻息が荒い。紺野は人事相談所の矢車泰造をこの交渉の矢表に立て、法律の點でも萬遺憾のない策をとつてゐる。紺野は人氣取りに、そのあとを無料診療所にするつもりだと云う。

咲枝は夫の戦死を確認すると、千葉の實家を訪れたが、兄夫婦の冷い態度に再び大森へ歸るより外はない。

咲枝の同窓北見静江は、咲枝と卒業以來の奇遇をした。戦争未亡人の彼女は、大森で酒場を經營しているが、この静江こそ問題の紺野の二號さんなのである。彼女は紺野を愛するという方ではないが、現在の境遇に或程度満足している。咲枝と静江は親友だが咲枝は静江のバトロンを紺野と知らないし、静江もまた咲枝を懇望する男が紺野とは知らないのである。

静江の酒場へたまに遊びにくる河田正樹は、咲枝の二階を借りてゐる眞面目な軍需工場の職工だが、故郷の尾道へ歸りたがつてゐる。妻の孝子が精神病院に入つてゐるので東京を動けないのだ。孝子の發狂は河田戦死の虚報以來である。この河田と咲枝は、相通する好感と同情を持つてゐる。

息子の死を聞いて以來、せつは婦人會の山崎女史の口利きで、咲枝を二號にする話に乗氣になつた。神様も御同意だし、先ず生活である。

但し相手は紺野である。咲枝が冗談半分で見合すると、それは齒科醫の島崎徹という英國風の紳士だつた。その令嬢は完全なアプレ娘で肺病の母を持つ父の二號を持つ事に激勵するくらい理解を持つてゐる。

こんな登場人物が、大都會の狭い一角にうごめいてゐるのだ。到底ちつとやそつとの事で收まりそうもない。

果然、紺野の咲枝に對する攻勢は、島崎との一件が知れると矢車を通じて尖鋭化して來た。ヒロ子の愛人トムは危険な朝鮮の戦線へ出征した。咲枝は紺野にも島崎にも觸れなば落ちん風情を示し始めた。せつはほくそえんでゐるが、さて咲枝の内心は何を企んでいるか疑問である。

河田の狂つた妻孝子は危篤となつた。慌て者の紺野は静江と別れようとしてゐる。かくて、混亂した世相の縮圖ともいふべき悲喜劇の齒車が、俄然急速に回轉し始めたのである。

慾望

製作＝近代映画協会 配給＝大映

1953.05.13

12巻 3,179m 116分 白黒

製作		橋本正嗣
監督		吉村公三郎
脚本		新藤兼人
撮影		宮川一夫
音楽		伊福部昭
美術		小池一美
録音		大角正夫
照明		岡本健一

配役

梶原咲枝		水戸光子
河田正樹		菅原謙二
妻孝子		長谷川裕見子
杉山ヒロ子		日高澄子
北見静江		乙羽信子
紺野長次郎		小沢栄
島崎徹		菅井一郎
矢車泰樹		進藤英太郎
生神様		毛利菊枝
山崎久子		岸輝子
せつ		北林谷栄
種田徳平		殿山泰司
車夫		上田寛

[戻る](#)

問い合わせ：角川 ビデオ担当

03-6893-3600

上映会企画 問い合わせまで